

第10回新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会概要

日 時：令和2年1月14日（火）18時～20時

会 場：新居浜市役所5階 大会議室

出席者：委員10人

傍聴者：2人

【教育長挨拶】

今後の学校の在り方を考える上で、それぞれの立場の委員さんから忌憚のないご意見をいただきながら、教育の質が今後も保障されるように、どういう在り方がよいかということでご意見を賜ったと思います。よろしくお願いします。

1 新居浜市立幼稚園の今後の在り方について（途中経過報告）

(1) 「新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会」での決定事項

- ・ 1園を廃止し、1園を存続することが望ましい。

ただし、その園の選択はこの委員会では行わない。

(付帯意見)

- ①市が、存続する1園を決定し、その1園がさらに魅力ある園として発展するように明確なビジョンを作ること。
- ②インクルーシブ教育の推進は大事にすること。
- ③園児募集停止の時期は早くても平成32年度募集時からとし、それまでの間、保護者への丁寧な説明が必要であること。
- ④新居浜市教育委員会と私立幼稚園の間の「申し合わせ事項」については私立と公立が共存を図るということから、この機会に見直しをすること。
- ⑤存続した1園の児童数の減少に歯止めとならなかった場合は、再度話し合いが必要であり、問題点を整理して議論すること。

(2) その後の経過

- ・ 市での方針決定

市の政策会議において協議を行い、方針を決定する。

(決定事項)

- ・ 令和2年度末をもって王子幼稚園を廃園する。
- ・ 王子幼稚園廃園後の跡地活用については、別途協議し決定する。

- ・ 王子幼稚園保護者・神郷幼稚園保護者への説明会の開催

(主な意見)

- ・私立幼稚園の来年度の新入園児募集の時期を目前にして早急過ぎる。
- ・下のお子さんの入園について下調べをし、検討する時間もない。
- ・公立幼稚園が3年保育を実施してこなかったために園児数が減少したのではないか。今後3年保育等を実施すべきである。 等

・市での再検討結果

説明会での結果と令和元年10月から実施の幼児教育・保育の無償化後の動向も踏まえる必要もあり、再検討した結果、公立幼稚園については、保育園も含めた総合的な検討を行った後に、今後のあり方について判断することとした。そのため、令和2年度の王子幼稚園の園児募集を実施することとし、新入園児が卒園するまでは、閉園しないこととした。また、公立幼稚園の3年保育への見直しや預かり保育の実施についても、今後の保育園も含めた総合的な検討の中で、市内での全体的なバランスや公立幼稚園での実施の必要性についても勘案したうえで、検討していく。

2 新居浜市立小・中学校の適正規模・適正配置について 学校の適正規模・適正配置のための具体的方策について

【中学校の適正規模を考える上での部活動について】

- ・現在の学校規模のままでは、部活動の種類も限られ、生徒が思いどおりの活動ができない状況がある。ここの中学校はサッカー部、ここの中学校はバスケットボール部があるというように、専門的な拠点をつくるのが可能であるのか。

→【委員長説明】

合同チームを組む時の規定があるので、一同にそこに集めるという合同チームの組み方は難しい。

- ・地域スポーツクラブへ移行していかないと、部活動の数が少なく、やりたいものが全然ないという状況になってしまう。
- ・いずれは地域の方で総合型スポーツクラブというようにならないと、先生方の働き方改革も進まないと思う。
- ・中学生になると自転車を通うことも可能と思われるので、川西地区・川東地区・上部地区に分けて、この部はこの学校が拠点となって活動するなど、中体連のしぼりを除いていく方向に変わっていったらいいと思う。
- ・拠点を決めて活動し、指導者の複数体制が整えば、経験のない先生は、経験のある先生について、指導者としても勉強でき、後にも引き継いでいけると思う。
- ・方向性として、部活動をそれぞれの中学校ではなくて、どこか拠点を決めてするというを進められる方向はないのかなと思うことが一点。そして、その中学校に通う方法が、自転車の一つ。もう一つは、瀬戸内バスみたいな方法はどうなのか。
- ・バスを交通手段として利用することによって、地域の交流ができ、いつか来る統廃合に関して少しずつ許容されていくのではないのかと思う。

- ・統廃合は、大人の力だけでは無理なので、子どもの力を使って意識改革。部活動を使って意識改革を進められればと思う。
- ・川東中学校は、今現在、体育館が一つしかないので、部活動は、各小学校に振っている。バドミントン部は、4キロメートル離れた多喜浜小学校まで通って活動している。部活動を、どこか拠点を決めて実施する方法は、近くだったら、十分可能な方法だと思う。そういうことをやるべきだと思う。
- ・部活の大会に出るのは、学校別でない駄目なのか。

→【委員長説明】

合同チームは組める。ただ、教員が引率しなければならないという縛りがある。

- ・例えば、川西地区では、この学校にはこの先生を配置して、こういう専門の部活をしようと動けば、できるということか。

→【事務局説明】

部員数は、例えば、サッカー部だったら11人。11人を満たしていなければ合同チームはできない。

→【教育長説明】

- ・今までにない、新しい視点だとは思う。
- ・学校は一つのコミュニティーになっているので、例えば、北中学校の生徒であれば北中学校を背負って戦いたいというのがあって、合同チームを作っても、学校にバスケットボール部があるから、学校を背負っているという所属感があるわけで、部活動をどこか拠点を決めて実施する方法は子どもの所属意識がどうなるのかという思いと、そもそも、国全体で考える中体連というものを中学生スポーツ連盟にして、クラブチームと学校体育が一つになったような組織にならないと、新居浜市だけがそういう形をとろうとしても、難しい部分があるのかなと思う。
- ・大生院中学校は、部活動の数も非常に少ない。24ある川東中学校に比べたら、選択肢が全くない状況である。これは子どもにとって、非常にかわいそうな状況にあるのは間違いない。
- ・発想は非常に斬新で面白い発想だと思うが、ただ、夕方の午後4時頃から仕事をおいて指導に来てくれるというのは、なかなか難しい。県も部活動指導員ということで、引率可の先生を配置してくれているが、たいてい土曜日、日曜日のみという現状である。
- ・クラブチームを運営するぐらいシステムチックな物が国の中に位置づけられていく歩みと一緒にないと、なかなか難しいところがあるかなと思う。ただ、今後、方向性を考えていく上で、重要な意見だと感じる。

【中学校の適正規模を考える上での免許外指導について】

- ・部活動の問題とともに、中学校については、免許外指導の問題がある。特に授業時数

の少ない技能教科。体育を除く技能教科は、非常に授業時数が少ないので、免許外の先生が自分の教科と併せて担当するという人数しか配置できないという状況が生まれてきている。

- ・免許外指導の現状が既にあるということで、子どもにとって大きな不利益であると感じる。
- ・市が抱えている専門の先生を市役所から送り込むというような形をとるのはいかがか。

→【教育長説明】

任命権者が愛媛県教育委員会になるので、市が雇った職員に市単独で授業をさせるということとはできない。ただ、先生が授業しているところに、補助として派遣するという方法は構わない。

- ・今までの検討委員会で既に決まっていることで、「望ましい学級規模は1学級あたり30人程度」とあるが、この流れから考えると、教員の足りない部分は市が独自で先生の加配を行って、クラスを増やす形になるように感じ取れる。市独自で先生を加配するというお考えはあるのか。

→【教育長説明】

教員の配置は愛媛県教育委員会になるのでできない。

- ・他の中学校にいる先生を、派遣するということが可能か。

→【教育長説明】

制度上は兼務発令ということで可能である。北中学校に置いて西中学校に派遣するという方法や、あるいは、もう少し大きな学校に置いて小規模校に派遣するということが可能である。

- ・学校の適正規模で、中学校が2学級というのは実際に厳しい。

免許外指導の問題があり、3学年全部で6学級の時に、教員は10人しか配置されない。教科数は美術と家庭科を分けると10教科ある。10教科で10人となると、1教科1人の配置は可能と思われるが、ところが、教科の授業時数が全く違うため、例えば国語は1人22時間持たなければならないところが、技術家庭科になると1人5時間である。そういう差が出て、国語の教員をもう1人つけると、1つの教科が空いてしまう。そこに、授業時数の少ない教科担任に免許外申請を出し、免許外指導が生まれているという状況だ。

中学校の場合は、1学年4学級あれば活気のあるゆとりのある学校づくりができる。

- ・新居浜市の現実として、どの教科で免許外指導が存在するのか。

→【事務局説明】

技術・家庭科・美術の三教科である。

- ・コミュニティースクールの案の中に、教科の補充として地域の人が指導の補助としてつくということがあったと思うが、新居浜市で実際に利用しているのか。

→【事務局説明】

総合的な学習の時間で地域の方が応援に来てくれている。免許を持った先生が

授業をし、その応援でという形になる。

小学校の場合は、総合的な学習の時間を利用して、しめ縄づくりやほうきづくりなど地域の方の応援をいただいて実施している。

- ・先生の負担を減らしたいということと、より専門性を子どもに与えたいというところで、免許外指導の点について、議題になっているのか。

→【教育長補足】

学校の規模として免許外指導が生じてしまうということは、子どもにとっては教育の質の保障の問題である。

前回少し紹介したと思うが、愛知県の大府市が人口9万人余りで、将来の新居浜市の人口規模ぐらいで、中学校は4校である。それに対し、新居浜市が中学校を別子まで全部入れると12校ある。大府市のように、1つの学年が7学級という規模でやっていると、免許外指導の問題もないし、部活動の問題もない。

ただ、大府市と新居浜市とまちのできていった歴史が違う。新居浜市は、川西地区から市制がおこり、周辺の村々を合併して大きくなっていったという経緯がある。元々の町とか村に1小学校、1中学校があったという事情があった。爆発的に名古屋市の衛星都市として発展していった大府市とは、まちが形成されていった過程が違う。新居浜市の在り方を見ていく時には、コミュニティーを壊してもいけないし、新たにコミュニティーが協調できるような在り方という視点も必要という気がする。

【学校の適正規模・適正配置のための具体的方策について】

- ・通学区域を排除できるのかどうか。できるのであれば、ある程度、部活動はしたいものができるようになるのではないかと思う。

→【事務局説明】

住所によって学校が決められているというのが、現在の小学校・中学校の通学区域の現状である。全体の検討の中で通学区域をどうするかというところも含め検討いただきたい。

- ・何年後を基準として、検討する期限、時期をどうするのか、そこをまず決めて欲しい。例えば、「10年後を基準として検討委員会で意見をまとめましょう」というような基準が欲しい。
- ・幼稚園の5歳の統計を愛媛県下でとった時に、2040年には、愛媛県下では64～68%になる。1000人いれば、640人から680人まで減少するとなっている。
- ・どのように新居浜市の子どもたちを教育していくかということを考えた時に、川西地区・川東地区・上部地区三つに分け、まず、三つに分けるために最初に何をしようか。それを決めていける委員会であれば意味のある委員会になると思う。
- ・「統廃合する学校を何処にするのか、何年を目標に進めていきましょう」というのは難

しい会議になるのか。また、そうしようとした時に、どのような反発が出るのかなど
いうところをお尋ねしたい。

→【アドバイザー】

20年、30年先のことを考えると、今は教員の負担がものすごく増えている。
こんなことが定数の範囲でできるのかという問題が国中あげて考えないといけない
問題だ。あるいは、廃校後の利用や、まちづくりとの関係はどうするのか。地域と
してどうするかというところもある。

また、現在、不登校がものすごく増えている。これにもう少しこまめな手の入れ
方をする方法も考えなければ、財政上の問題だけではなくなるような気がする。そ
ういう視点をどこかにおさえておかないと、館は立派になったのに、ソフトはガタ
ガタというようなことが、国中で今起っている問題である。そのへんも一つ検討す
る必要があるのではないかと思う。

→【委員長補足説明】

この委員を拝命してから他市の状況も調べた。群馬県の富岡市では、「市立小中
学校の適正規模・適正配置基本計画」を策定しており、項目を読むと、まず、「こ
ういう子どもにしたいという子ども像」こういう所からスタートし、「子ども像を
効果的に実現するための教育環境の整備」、「学校経営の地域への参加促進」、さら
には「短期」「中期」「長期」的な行程を示すという流れになっている。

また、基本計画策定に当たっては、「策定の主旨」、「背景」、「小中学校の現状と
課題」を出して、「適正規模・適正配置の基本的な考え方」というのを明確にして
いる。

「適正化の基本的な考え方」としては、「クラス替えを可能とすること」、「部活
動等の活動について多様な選択が可能であること」、「学年教科ごとの複数の教員
が配置可能な規模であること」とか、「学校施設の円滑な利用が可能な規模である
こと」、そういった辺りを基準にし、「適正規模」を小学校・中学校ともに「12
学級から18学級」としている。

基準が決まると、学校の適正配置の問題で、小学校は「4キロメートル以内」、
中学校は「6キロメートル以内」とし、統廃合の基本的な考え方から合意形成の
進め方まで、富岡市の計画を立てられている。

大変参考になる資料だと思う。その辺りも我々は考えていかなければならな
いと思う。

- ・10年、20年先と言われながらも、大生院中学校は、既に全学年1学級で、それ
による不具合等も発生しているのは確かである。10年、20年先だけでなく、まず
は、今のこの状況自体も並行的に打破する方法を考える方向性も大事であると思う。
- ・大生院小学校・大生院中学校が、小中一貫義務教育学校を目指そうということにな
ったときに、いざ、この委員会で方向性をしっかり出せていないからということで、勝
手にそういう動きはできないとか、不具合すらも発生してくるのではないかと思う。
- ・「期限を切って、いつまでにこの部分は結論を出す」というのがないと、議論が進まな

いと思う。

→【事務局】

スケジュールについても次回のときに示させていただく。

- ・中学校の免許外指導の問題を聞き、今のところ望ましい学校規模は、「1学年あたり2学級以上」となっているが、それでは少ないのではないかという考えになってきた。再度議論が必要ではないかと思う。
- ・望ましい学級規模は30人程度かなと思う。中学校の適正規模は「1学年あたり4学級」と決められた形で、将来的に何年後に、具体的にどこどこを統合しようという風に検討していけば進んでいけるのかなと思う。
- ・統廃合は、将来的に必ず必要なことであり、小学校と中学校を分けて考える必要性を感じた。まずは中学校の統廃合と具体的なお話を進める必要がある。子どものことを一番に考えると、不利益をこうむっている子どもがたくさんいるのも事実である。具体策を出してほしい。

【委員長まとめ】

- ・今すぐに取り組まなければならない課題もあるし、中期・長期的なものもある。その辺りも含めて検討していけたらと思う。

【アドバイザー】

宮崎市のどこだったかと思うが、学校をつぶしたくないから、生徒が動くというケースがあったと思う。それで乗り切ったというところもあったと思う。調べるだけ調べてみるのも一つの手かなと思う。

また、ブロックが決まっているのであったら、大阪がやっていたと思うが、地域も巻き込んで、「環境の問題を考えよう」とか、「健康の問題を考えよう」とか、イベントのような形で入って行って、気持ちの上でだんだんと一緒にするという根回しをやっていた。一気にしたら反発するのは当然で、ましてや新居浜市は歴史が全部違う。だから、普段から付き合う世界をやっていくことも一方には考えておかないと、しゃくし定規やったって、感情が入る。子どもにとっては、育ったまち・育てるまちである。この辺のことも考えていく必要がある。

どこでもこれは、難しい問題である。宇和島市でも一つのスポーツはこの中学校で特化しようとか、そんな話をしていたこともあった。この問題はそれぞれが悩んでいる。